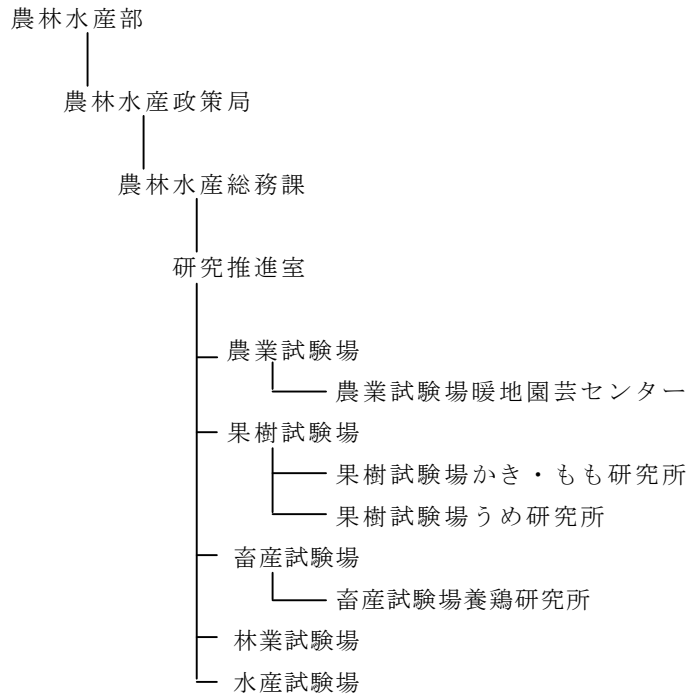


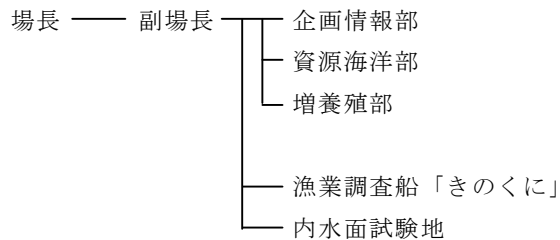
水産試験場概要

I 機構と組織

1 機構



2 内部組織



3 職員の構成

区分	行政職	研究職	現業職	計
場長		1		1
副場長		1		1
企画情報部		3	2	5
資源海洋部		6		6
増養殖部		5	1	6
漁業調査船	8			8
内水面試験地		3	1	4
	8	19	4	31

4 職員と職務分担

部名	職名	氏名	事務分担
	場長	中西 一	場の総合企画及び総括
	副場長	小久保 友義	場長の補佐，人事，服務，庁舎の管理，予算の総括
企画情報部	部長	小川 満也	部の総括・企画調整，流通対策，魚礁調査，成果の公表・普及に関すること
	主任研究員	山内 信	藻場造成（コンブ目）に関すること
	副主査研究員	吉本 洋	庶務関係に関すること
	用務員	田所 恵子	庁舎内の清掃
	用務員	田中 千秋	〃
資源海洋部	部長	武田 保幸	部の総括・企画調整，漁海況速報に関すること
	主任研究員	中地 良樹	漁業資源・漁場調査と情報提供（総括），海洋観測に関すること
	主査研究員	堀木 暢人	資源管理，船びき網漁業に関すること
	主査研究員	原田 慈雄	卵稚仔調査，まき網漁業，魚群探知機に関すること
	主査研究員	御所 豊穂	高精度海況図，海況日報作成，高度回遊性魚類（マグロ類）に関すること
	研究員	小林 慧一	イサキ，高度回遊性魚類（カツオ），カツオマップに関すること
増養殖部	部長	奥山 芳生	部の総括・企画調整，飼育施設等の保守管理に関すること
	主任研究員	木下 浩樹	浅海増殖，藻場造成（ホンダワラ類），漁場環境（生物モニタリング）に関すること
	主査研究員	堅田 昌英	養殖衛生管理体制整備に関すること
	副主査研究員	白石 智孝	スマの種苗生産・養殖，マナマコの種苗生産，漁場環境（赤潮・貝毒）に関すること
	副主査研究員	加藤 文仁	魚類種苗生産・養殖，クエの共同研究，栽培漁業に関すること
	現業技能員	佐々木 明生	調査研究の補助
漁業調査船 (きのくに)	船長	伊勢谷 俊人	船舶の管理・運航，海洋観測調査，飼育施設等の保守管理に関すること
	機関長	亀谷 弘	〃
	主査航海士	小西 寛弥	〃
	主査機関士	鳥居 英希	〃
	主査機関士	平見 謹一	〃
	副主査航海士	住谷 勝志	〃
	副主査機関士	井上 正之	〃
	副主査航海士	清野 茂	〃
内水面試験地	主任研究員	葦澤 崇博	アユ資源，ウナギ資源，養殖衛生管理体制整備に関すること
	副主査研究員	中山 仁志	低コストなアユ養殖飼料，アユ冷水病対策ワクチンに関すること
	研究員	宇野 悦央	業務全般，施設整備の補助
	技師補	佐武 功三	施設整備，業務全般の補助

II 業務

1 試験研究項目一覧

事業名 又は 課題名	予算額	財源内訳			
		国庫	使用料・手数料	諸収入	一般財源
水産試験場費	71,577	900	1,763	29,630	39,284
水産試験場運営	18,817			337	18,480
内水面試験地運営	5,314		1,763		3,551
調査船運航	5,614				5,614
紀州特産魚ブランド力強化のための体成分 特性の解明	986				986
漁業資源・漁場調査と情報提供	12,130			12,130	
高度回遊性魚類調査	13,588			13,588	
和歌山県特産魚の産卵場解明	491				491
イワシ・アジ・サバ類の漁場形成機構の解 明と魚群速報の発信	2,300				2,300
消波ブロックの有効活用による漁村活性化	1,655				1,655
磯根漁場の生産力強化技術の開発	1,453				1,453
新養殖魚「スマ」の種苗生産技術の開発	2,309				2,309
水産衛生対策	1,800	900			900
鰻生息状況等緊急調査	2,000			2,000	
低コストなアユ養殖飼料の開発	1,545				1,545
アユ冷水病菌由来毒素を応用した新規トキ ソイドワクチンの開発	1,575			1,575	
水産業振興費	3,309	570			2,739
資源管理・回復推進（資源管理課）	2,503	559			1,944
漁場環境モニタリング（資源管理課）	178	11			167
栽培漁業推進（水産振興課）	628				628
漁業調整費	54				54
漁業・遊漁調整（資源管理課）	54				54
漁業構造改善費	793				793
漁場効果調査（水産振興課）	693				693
プエルルス調査（水産振興課）	100				100
	75,733	1,470	1,763	29,630	42,870

III 業績

1 外部に発表した事項

1) 学会等の口頭発表

題名	発表者	発表誌
○浮魚（アジ類）の分散と加入機構	原田慈雄 住友寿明 ^{**} 宮澤泰正 ^{***} 斉藤真美 ^{****} 武田保幸	平成 26 年度日本水産学会秋季大会シン ポジウム (口頭発表)

○スマの養殖技術の開発-2 種苗生産におけるシロギス受精卵との適正混合 比の検討	有本一平※※※※※ 白石智孝 加藤文仁 奥山芳生 中西一 東剛久※※※※※ 石田昌史※※※※※※※ 矢澤良輔※※※※※ 竹内裕※※※※※	平成 27 年度日本水産学会春季大会 (口頭発表)
○冷水病菌由来コラゲナーゼがアユ表皮に及ぼす 影響の検討	中山仁志 田中啓友※※※※※※※ ※ 寺村直子※※※※※※※ ※ 服部俊治※※※※※※※ ※ 相川英明※※※※※※※ ※※ 岡村貴司※※※※※※※ ※※※ 本川祥吾※※※※※※※ ※※※※ 桑原正和※※※※※※※ ※※※※ 天野健一※※※※※※※ ※※※※※	平成 26 年度日本魚病学会秋季大会 (ポスター発表)
○水棲細菌由来耐熱性コラゲナーゼの性状解析	中山仁志	平成 26 年度わかやまテクノ・ビジネス フェア (口頭発表)
○魚類余剰部位の有効利用法の検討	中山仁志	平成 26 年度わかやまテクノ・ビジネス フェア (ポスター発表)
○アユ用低魚粉飼料の開発	中山仁志 鈴木伸洋※※※※※※※ ※※※※※※※ 村下幸司※※※※※※※ ※※※※※※※ 松成宏之※※※※※※※ ※※※※※※※ 奥宏海※※※※※※※※※ ※※※※※ 古板博文※※※※※※※ ※※※※※※※ 山本剛史※※※※※※※ ※※※※※※※	平成27年度日本水産学会春季大会 (ポス ター発表)

※徳島県立農林水産総合技術支援センター、※※(独)海洋研究開発機構、※※※日本エヌ・ユー・エス(株)、
※※※※東京海洋大学、※※※※株式会社丸東、※※※※※西南水産株式会社、※※※※※※ニッピ・バ

イオマトリクス研究所、※※※※※※※神奈川県水産技術センター内水面試験場、※※※※※※※※滋賀県水産試験場、※※※※※※※※※松研薬品工業株式会社、※※※※※※※※※※※※※※東海大学、※※※※※※※※※※※※※※増養殖研究所

2) 委託事業報告書等刊行物

- (1) 漁海況速報（週刊）
- (2) 人工衛星画像海況速報（2014-No. 34～146, 2015-No. 1～37）

3) 農林水産省研究会資料等

題 名	発 表 者	発 表 誌
○平成 26 年度国際資源対策推進委託事業第 1 回カツオ SU 推進 検討会	小林慧一	同会議資料
○平成 26 年度瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁海況予報会 議	堀木暢人	同会議資料
○平成 26 年度国際資源評価等推進委託事業第 3 回カツオ SU 推進検討会	小林慧一	同会議資料
○成 26 年度中央ブロック資源評価会議および第 1 回太平洋イ ワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議	堀木暢人 原田慈雄 中地良樹 小林慧一	同会議資料
○平成 26 年度瀬戸内海ブロック資源評価会議	堀木暢人 原田慈雄	同会議資料
○平成 26 年度中央ブロック資源海洋調査研究会	堀木暢人 原田慈雄 小林慧一	同会議資料
○第 2 回太平洋イワシ、アジ、サバ等長期漁海況予報会議、 第 3 回資源評価調査担当者会議	堀木暢人 原田慈雄 中地良樹	同会議資料
○平成 26 年度関東・東海ブロック水産海洋連絡会	御所豊穂	同会議資料
○平成 26 年度国際資源評価等推進委託事業まぐろ調査研究成 果報告会	武田保幸	同会議資料
○平成 26 年度国際資源評価等推進委託事業年度末報告会	御所豊穂	同会議資料
○平成 26 年度養殖衛生管理技術者養成本科基礎コース研修	堅田昌英	同会議資料
○ブリ類の難治癒疾病連絡協議会	堅田昌英	同会議資料
○平成 26 年度瀬戸内海・四国ブロック魚病検討会	堅田昌英	同会議資料
○平成 26 年度水産用医薬品薬事監視講習会	堅田昌英	同会議資料
○平成 26 年度養殖衛生管理体制整備事業太平洋ブロック地域 合同検討会	堅田昌英	同会議資料
○平成 26 年度ナマコ種苗生産研究会	白石智孝	同会議資料
○平成 26 年度瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議 ・生産環境部会・増養殖部会合同部会及び藻類情報交換会	奥山芳生 山内 信	同会議資料
○平成 26 年度水産増養殖関係研究開発推進会議 養殖産業部 会	中山仁志	同会議資料

題 名	発 表 者	発 表 誌
○平成 26 年度魚病症例研究会	堅田昌英	同会議資料
○平成 26 年度漁場環境保全関係研究開発推進会議赤潮・貝毒 部会	白石智孝	同会議資料
○平成 26 年度中央ブロック水産業関係研究開発推進会議 漁 業資源部会・海洋環境部会・資源生産部会合同部会及びマダ コ・イセエビ・ナマコ研究会	奥山芳生	同会議資料
○平成 26 年度養殖衛生管理技術者養成特別コース研修	堅田昌英	同会議資料
○平成 26 年度全国養殖衛生管理推進会議	堅田昌英	同会議資料
○平成 26 年度鰻生息状況等緊急調査事業 計画検討会	葦澤崇博	同会議資料
○平成 26 年度鰻生息状況等緊急調査事業 中間検討会	葦澤崇博	同会議資料
○平成 26 年度鰻生息状況等緊急調査事業 報告会	葦澤崇博	同会議資料
○平成 26 年度アユ疾病研究部会	中山仁志	同会議資料

4) 新聞掲載

記事見出し（内容）	掲載年月日	掲載誌名
・県内カツオ漁不振	2014. 4. 9	読売新聞
・カツオ「こんな不漁初めて」	2014. 4. 10	紀伊民報
・カツオ漁異変	2014. 4. 12	朝日新聞
・藻場確実に回復	2014. 5. 30	紀伊民報
・カツオ東北でも不漁？	2014. 6. 12	毎日新聞
・カツオ漁獲例年の 15%	2014. 6. 17	読売新聞
・海底メタン存在か	2014. 6. 25	読売新聞
・未来資源串本町沖に？メタンハイドレート	2014. 6. 26	朝日新聞
・挑戦続くスマ養殖	2014. 7. 11	水産経済新聞
・イワシ、アジ、サバ類魚群速報システム開発へ	2014. 7. 19	紀伊民報
・カツオ資源考える	2014. 8. 27	紀伊民報
・カツオ不漁は「なぜ」	2014. 8. 27	産経新聞
・全国的不漁の実態を聞く	2014. 9. 2	紀伊民報
・メタンハイドレート潮岬沖で調査始める	2014. 9. 20	朝日新聞
・海底メタン挑む3年目	2014. 9. 20	読売新聞
・本年度の調査始める メタンハイドレート	2014. 9. 21	紀伊民報
・ヒロメの形、産地で違い	2014. 9. 26	紀伊民報
・スマ幼魚「生残率」確立 養殖の拡大に期待	2014. 10. 16	朝日新聞
・太地沖 浮魚礁なくなる	2014. 10. 17	紀伊民報
・浮き魚礁 所在不明	2014. 10. 24	毎日新聞
・養殖実現へ大きく前進 スマ種苗生産が好調	2014. 11. 6	熊野新聞
・魚も漁師もいなくなってしまう	2014. 11. 7	毎日新聞
・「幻の魚」スマ 養殖魚へ注目	2014. 12. 10	読売新聞
・「紀州ひろめ」拡販へ	2014. 12. 10	みなと新聞
・マグロに近い幻の高級魚「スマ」 稚魚の飼育技術 向上に成功	2014. 12. 18	産経新聞
・養殖衛生研究の成果発表 県水産試験場で対策会議	2014. 12. 21	熊野新聞

記事見出し（内容）	掲載年月日	掲載誌名
・養殖実現へ大きく前進 スマ種苗生産が好調	2014. 11. 6	熊野新聞
・魚も漁師もいなくなってしまう	2014. 11. 7	毎日新聞
・「幻の魚」スマ 養殖魚へ注目	2014. 12. 10	読売新聞
・「紀州ひろめ」拡販へ	2014. 12. 10	みなと新聞
・マグロに近い幻の高級魚「スマ」 稚魚の飼育技術向上に成功	2014. 12. 18	産経新聞
・養殖衛生研究の成果発表 県水産試験場で対策会議	2014. 12. 21	熊野新聞
・今年はスマの当たり年！？	2014. 12. 26	紀伊民報
・水産試験場研究員が発表 串本で養殖衛生対策会議	2014. 12. 27	紀伊民報
・水産業、楽しく身近に 海藻ヒロメ養殖体験	2015. 1. 31	毎日新聞
・県水試の成果発表会	2015. 2. 4	紀伊民報
・ヒジキの種苗大量生産	2015. 3. 18	紀伊民報

5) 研究発表会

(1) 県内養殖衛生対策会議

① 日 時

平成 26 年 12 月 19 日

② 場 所

水産試験場学習ホール

③ 内 容（発表題目、発表者）

・梅酢の種類および添加濃度を変えた梅酢投与マダイの抗病性	増養殖部	堅田昌英
・水産用ワクチンについて	増養殖部	堅田昌英
・水産用医薬品の適正使用について	増養殖部	堅田昌英
・串本浅海・うらみ養殖場の漁場環境について	増養殖部	木下浩樹
・小型円形水槽を用いたスマの種苗生産技術開発	増養殖部	白石智孝
・和歌山県における栽培漁業について	増養殖部	加藤文仁

(2) 水産試験場成果発表会

① 日 時

平成 27 年 2 月 6 日

② 場 所

紀南文化会館小ホール

③ 共催 公益財団法人わかやま産業振興財団

④ 内 容（講演及び発表題目、講演者及び発表者）

基調講演 「日本沿岸のコンブ類の多様性と保全」

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 准教授 四ツ倉典滋

成果発表

・和歌山県のコンブ目植物 カジメ類の高水温適正株の作出	企画情報部	山内 信
・消波ブロックの有効活用による漁村活性化	増養殖部	木下浩樹
・紀州特産魚ブランド力強化のための体成分特性の解明	企画情報部	小川満也
・2014年のカツオひき縄漁と近年の動向	資源海洋部	小林慧一
・低コストなアユ養殖飼料の開発	内水面試験地	中山仁志

2 研修生・見学者の受け入れ

1) 研修生の受け入れ

(1) 地域社会体験研修

西向中学校教師 (1名) 8月6日～8月7日

(2) 職場体験学習

新宮高校 (1名) 7月22日～7月24日

潮岬中学校 (2名) 8月20日～8月22日

串本西中学校 (1名) 9月24日～9月26日

串本古座高校 (1名) 2月12日～2月13日

2) くろしおふれあい講座

(1) 参加者

県下8小学校、1中学校の計295名の参加

(2) 内 容

水産試験場概要説明, 和歌山の漁業, 海藻の分類、見学

3) 研修生・見学者の一覧

月	漁業関係		学校関係		行政関係		県民一般		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4	1	1	4	9	2	23	6	14	13	47
5	6	19	9	630	12	73	4	6	31	728
6	5	7	6	278	3	9	5	53	19	347
7	3	13	8	57	8	24	2	46	21	140
8	4	69	5	20	3	18	1	16	13	123
9	1	1	9	345	1	1	0	0	11	347
10	0	0	6	775	5	15	8	9	19	799
11	3	18	4	548	5	73	4	120	16	759
12	4	73	2	2	1	3	3	4	10	82
1	1	1	5	59	0	0	2	6	8	66
2	2	16	3	5	2	6	3	53	10	80
3	2	12	2	2	5	17	3	4	12	35
計	32	230	63	2,730	47	262	41	331	183	3,553